

第6分科会 健康・安全教育

研究課題 たくましく生きる心と体をはぐくむ健康・安全教育

趣 旨

子どもたちを取り巻く社会環境や生活環境の急激な変化によって、子どもたちの生活様式は大きく変化し、心身の健康状態に様々な影響を与えている。体力・運動能力の低下、肥満や生活習慣病の増加、摂食障害、薬物乱用や性感染症、アレルギー性疾患などの健康問題が生じている。

食生活においても、朝食の欠食や孤食、脂肪などの過剰摂取、野菜不足、食物アレルギーの問題など、食に起因する様々な課題も顕著になっている。

また、日常生活においてもパソコンや携帯電話などの広がりによって便利になった反面、子どもたちの生活リズムが不安定になったり、事件・事故に巻き込まれたりするなどの問題も生じている。

こうした状況にあって、子どもたちが今まで以上に健康や安全についての意識を高め、その問題に適切に対応するとともに、生活や行動を自ら管理し、改善する資質や能力を育成する必要がある。更に、危険予知・事故防止など安全に関する意識を培う必要がある。そのためには、学校ばかりでなく、家庭や地域社会との連携が必要である。そして、心と体をはぐくむ健康・安全教育の充実と望ましい生活習慣を身に付けるため、家庭、地域社会がその役割に応じた機能を発揮するよう、学校としての働きかけをすることが重要である。

子どもたちが、たくましく生き抜いていくための健康・安全教育の在り方を明らかにする。

研究の視点

1 心身の健やかな発育・発達を目指す健康教育の推進

子どもたちが生涯を通じて健康で明るく豊かな生活を過ごすには、たくましい心と体が必要である。日々の生活の中で運動やスポーツに親しみ、体力の向上や健康の保持増進を図ることは大切である。

特に、基本的な生活習慣や食育の重要性が叫ばれている今日、生活リズムや食事のとり方など、自ら判断し、自己管理する能力が求められている。

そのために、学校、家庭、地域との連携をより一層推進した取組みを行うことが必要である。

心と体を一体としてとらえた健康教育の推進に果たす校長の役割や在り方を究明する。

2 自ら安全な行動がとれる能力の育成を目指す安全教育の推進

様々な危険性が潜在する社会において、子どもたちが生涯にわたって安全に生活していくためには、安全な行動が主体的にとれる能力の育成が求められている。そのため、関連する教科や特別活動などを通して安全教育の推進を図る必要がある。そして、学校は、家庭や地域、関係機関とネットワークを構築し、自分の命は自分で守り、実際に行動できる能力を子どもたちに身に付けさせることが大切である。

安全を脅かす事象に、迅速かつ適切に対処できる子どもを育てる安全教育の推進に果たす校長の役割や在り方を究明する。